

夏休みを前に、個人タクシー協同組合が、 小学生向けの自転車交通安全教室を開催しました！

15日（火）、杉並区立和田小学校では、個人タクシー協同組合杉並支部が企画した自転車交通安全教室が開催され、小学4年生66名が自転車シミュレーターを使って、自転車のルールやマナーを学びました。この催しは、自転車を利用する機会が増える夏休みを前に、悲惨な交通事故から子どもを守るため行われたもので、今後も区内2校で教室を開催する予定になっています。

平成25年に、都内で発生した交通事故は、42,041件で、そのうち自転車に関連する事故は、37%に相当する15,550件の発生となっています。杉並区は、全国でも高い数字となっている都内の平均を上回る39.8%の690件（交通事故発生数1,735件）の自転車に関連する事故が起きています。



東京都個人タクシー協同組合杉並支部（荻窪4-29-10・会員数349名・大内哲支部長）は、これまでに会員が交通事故を起こさないよう、定期的に道路交通法の勉強会を行ってきました。タクシー運転手が、交通事故を起こせば生活の糧を失ってしまいます。また、長い経験を持つドライバーばかりなので、日々の運行の中で子どもの急な飛び出しやルールを守らない自転車の乗り方によって、ヒヤリとした経験を持っています。また、夏休みは、子どもたちの行動範囲が広がります。自転車で、普段は走らないところまで、出かける機会も増えるため、交通事故の危険性も高まります。そこで、子どもたちが悲惨な交通事故に遭わないよう、自転車シミュレーターを利用した自転車講習会を開催することになりました。

自転車シミュレーターは、自転車にまたがりペダルを踏んで、前方のモニターの中を進んで行くものです。画面上に現れる信号に従い自転車を停止をさせたり、歩道の車道寄りを時速5～6kmのスピードで走ることなどを学びました。この日の5時間目・6時間目の授業では、小学4年生の2クラスの66名全員が、このシミュレーターを体験しました。

タクシー組合の大内支部長は、「みんなが注意しないと交通事故はなくなりません。子どもたちには、今日学んだことを家族にも伝えてもらい悲惨な交通事故を減らしたいです。」と話していました。タクシー組合では、夏休みを前にさらに区内の小学校2校で、同様の講習会の開催を予定しています。